

家族の絆ってなんだろう？



何もない人生なんてない。

誰もが向き合わなければならない課題を持って生きている。

累計50万人以上を動員し、観る者を感動の涙で溢れさせたドキュメンタリー映画『うまれる』。生命の誕生を見つめ、様々な人生の選択とそこから生まれるドラマに寄り添った感動から4年。

さらにテーマを深め、「家族の絆とは何か？」を問う

『うまれる』シリーズ第2作『ずっと、いっしょ。』が、うまれた。

本作には、“最愛の妻を失った事実に向き合う夫”“血の繋がりが無い息子に向き合う父”、そして“重篤な障がいを持つ子を育てる夫婦”の、3家族が登場する。

彼らの姿を通し、常に密接にある“生と死”を凝視しながらも、そこから脈々と受け継がれていく生命、生きる力、そして、その土台となる“家族の在りよう”に、深く感銘し、胸を打たれずにはいられない。



■血の繋がりのない息子を育てる父親

初めて父親と息子が出会ったのは、息子がまだ2歳の頃。息子は母と前夫との子どもで、父とは血の繋がりが無いステップファミリーだ。5歳になり、自分を父の父親であると疑っていない息子に、事実を伝えるべきか、迷う。今までの関係が壊れてしまわないか、不安に押しつぶされそうになりながら、息子に大事なことを伝えたい、と重い口を開く。



■最愛の妻を失った夫

末期の大腸がんを患っていた妻が、闘病の末、自宅に戻る。結婚した2人の娘も実家に戻り、残された時間を家族と共に過ごすことに。長女のお腹にいる4人目の孫の誕生を楽しみにしていた妻は、家族に見守られながら、「幸せ。ありがとう」と涙を流し、静かに息を引き取る。42年間連れ添った夫の悲しみは深く、遺影の前で涙する日々。遺された夫は、どのように立ち直っていくのか？



■不治の障がいを持つ子を育てる夫婦

1歳まで生きられる確率が約10%と言われる、18トリソミーという染色体の障がいを持って生まれてきた虎ちゃんは、前作で1歳の誕生日を迎えた。2歳になり、たくさんの笑顔を見せるようになり、できることも少しずつ増えていた。だが突然、虎ちゃんが危篤状態に陥る。両親は、虎ちゃんの死を覚悟するが…。果たして虎ちゃんは...？

子育てに悩むすべての人たちへおくる物語

奇跡的に生まれてきた小さいのち僕は良き父親になれるのだろうか？

誕生をテーマにした前作『うまれる』（2010年）の公開と同時に娘が生まれ、小さく愛おしい命を目の前にした僕は、率直に「いい親になりたい。家族と幸せに一生を過ごしたい。」と思いました。でも、それは自分が期待するほど簡単な作業ではないとすぐに気づかされました。

長年、親との葛藤を抱えてきたが故の僕の「家族の肖像」が、あまり理想的なものではなかった事と関係しているかもしれません。

それから、4年あまり。カメラを片手に様々な家族を追いかけて完成したこの作品は、家族とは、父親とは、幸せとは、という様々な不安、責任、そして希望を追いかけた僕自身の心の記録です。

映画を観ていただいた方、それぞれに、感じていただけることがあると信じています。

監督 豪田トモ



家族とは、大変な時も、喜びの時もある。人間はそういうものですが、問題を抱えながら生きていくものだと思います。本作にはたくさんのメッセージが詰まっています。観る人には、それを「心で」感じて欲しいと思います。ナレーション 樹木希林

手に入れて、手離して。出逢って、別れて。

産まれて、死んで、また生まれる。

なんてステキな物語なのでしょう。

出演者のみなさんの交差する愛。そして、制作側の愛あふれるまなざし。

観終わって、「ありがとうございます」と呟いちゃいました。

東ちづる（女優）

家族とはずっと一緒にいることは出来ない。

でも、全力で命をかけて愛することで、ずっと一緒にいれるんだ。

鈴木おさむ（放送作家）

参加申込書

氏名

大人（子ども支援者・教職員・保護者・その他）

小中高生（学年： 年齢： 才）

住所

電話番号

《お申込み・問い合わせ先》 *水曜日は休館
津市まん中子ども館（指定管理者：(特)津子どもNPOセンター）
津市大門7-15津センターパレス地下1階
TEL 059-213-2131
FAX 059-213-2132
E-mail mail@mannaka-kodomokan.net

◆参加希望の方はメール、Faxまたは来館にてお申込みください。メールでお申込みの場合、まん中子ども館から申し込み受付済みの返信をします。Faxでお申込みの場合、お電話で受付済の確認をします。